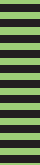


# 歯科衛生士口演

(B会場)

B 会 場

HO-01



5月25日(土) B会場 8:30~8:40

HO-01

治療を中断していた広汎型重度慢性歯周炎（ステージⅣグレードC）患者に対して、歯周炎憎悪の要因を情報共有してモチベーションを向上させ歯周病治療に成功しSPTを継続している症例 辺見 茉奈美

キーワード：慢性歯周炎、患者教育、モチベーション

【はじめに】歯周病の個別化医療を実践するには患者の特徴を把握する必要がある。治療中断により本患者の歯周炎は重度に進行していた。治療中断と歯周炎が進行した要因を考察して患者教育を繰り返しつつ治療介入することで歯周病治療を成功させた症例の詳細を報告する。

【症例の概要】初診：2019年11月、52歳、女性。主訴：左下が嘔むと痛みがあり、食事がしづらい。

全身既往歴：特記事項なし。歯科既往歴：当クリニックにおいて、2016年に歯周基本治療の経験があるが、中断。

【検査所見】全体的に歯肉の発赤、腫脹および歯石の沈着を認めた。4mm以上PPD70.9%、BOP陽性率71%、PCR100%

【診断】広汎型慢性歯周炎 ステージⅣ グレードC

【治療計画】①歯周基本治療（患者教育、TBI、Sc&Rp、抜歯、義歯装着）②再評価 ③SPT

【治療経過】患者は歯周炎のリスクと歯周治療の必要性を理解できていなかった。再々来院時には食事がとりづらいことを含め日常生活にも支障があった。現在の口腔内状況と歯周治療の必要性を理解してもらい、患者の気持ちに寄り添った言葉かけや口腔衛生指導を行ない、歯周基本治療を進めた。SPTに移行して3年経過しており、歯周炎の増悪は認めない。

【考察・まとめ】治療中断や歯周病の進行には患者ごとに異なる理由がある。それらを個別に推察して情報共有することは患者のモチベーション構築および維持に繋がる。生活習慣病である歯周病の個別化医療を展開する上で、最初に歯周基本治療に携わる歯科衛生士の役割は大きい。画一的なTBIを行うのではなく、患者とのコミュニケーションや検査結果からヒントを探し、個別の患者教育と適切な歯周基本治療を実践することが肝要である。